



# Step 1 進む人口減少 少子高齢化の 流れに向かい合う

▲中心市（十和田市、三沢市）と周辺町村が1対1で協定を締結

地方圏で進む深刻な人口減少、少子高齢化。住みやすさを求め、都市部に人が流れていきます。そのため、単独の市町村で十分な生活機能を維持し、確保することが困難となつていきます。十和田市でも、過去10年間で人口の約4千人が減少しています。そこで、人々が地方に定住するための新たな取り組みが「定住自立圏構想」です。国は2008年、定住自立圏構想を提唱しました。これは、この構想を進めるべきと判断した人口約5万人以上の中心市と、密接にかかわる周辺市町村が一つの圏域を形成。相互に連携し、地域住民の生活機能を確保していくことで暮らしやすく魅力ある地域を創るものです。4月現在、全国では67の圏域が形成されています。

十和田市は、三沢市と共同で中心市を結成し、10月4日、周辺町村（野辺地町、七戸町、六戸町、横浜町、東北町、六ヶ所村、おいらせ町、秋田県小坂町）と「上十三・十和田湖広域定住自立圏」の協定を締結しました。県内では、八戸市と弘前市を中心市とした圏域に次いで3例目となります。



南部裂織のように…  
地域の特徴を生かし  
新たなひとつの圏域を紡ぐ

Special edition

## 2市7町1村。伝統工芸から学ぶ新しい連携のカタチ 定住自立圏構想

十和田市と三沢市—共同中心市・2市長が定住自立圏にける想い

Top's Voice ▶ October 4, 2012

### 美しい郷土に生まれ生きる人々の 生活を守ることが最大の使命

わが国では、少子高齢化、人口減少が確実に進んでいます。このような中で、わたしたちの圏域は非常に広大であり、かつ豊かで、多様な文化、自然、風土、歴史などの地域性に恵まれています。

このように美しい郷土に生まれ、生きる人々の生活の営みを守っていくことが、この定住自立圏を進めるわたしたちの最大の使命です。そのため、地域力の結集が何よりも必要です。

今後、具体的な取り組みとなる定住自立圏共生ビジョンを年度内に策定することになりますが、関係市町村の皆さまとともに、持続可能な地域の未来像を描きながら、一步一步、定住自立圏を進めていきたいと考えています。



種市 一正 三沢市長  
Taneichi Kazumasa



小山田 久 十和田市長  
Oyamada Hisashi

### 多様な特色を認め合い、尊重しながら紡ぐ 南部裂織のような圏域へ

上十三・十和田湖広域定住自立圏の協定締結は、5年、10年の中長期的な視点による実際の取り組みを進める上でのスタートラインです。関係市町村の皆さまと力を合わせ、「できることから着実に」取り組みを深化させていきたいと存じます。

市町村それぞれで事情は異なりますが、この特殊性、多様性は圏域を形成する上で大きな強みになると期待しています。

古い布を裂き、多種多様な新しい布地を織る伝統工芸品・南部裂織のように、圏域市町村が互いの多様な特色を認め合い、尊重しながら一つの形に紡いでいく、そのような圏域にしていきたいと考えています。